

南丹地域振興計画（中間案）

1 南丹地域の将来像（20年後に実現したい姿）

～来てよし・観てよし・住んでよし 関係人口等1,000万人の活気あふれる京都丹波～

- 京都スタジアムを核に定住、交流人口も含めた関係人口等が拡大し、賑わいが創出されている地域
- 食、自然・歴史文化、スポーツなど京都丹波の強みを活かして、誰もが健康で生き生きと、安心・安全に暮らしている地域
- 「森の京都・京都丹波ライフスタイル」（豊かな自然環境のもとで、住まい・仕事・子育てのすべてが充実）が浸透し、若者の定着が進んでいる地域

2 施策の基本方向

【基本的な視点】

- 京都丹波の強みである「食」、「自然・歴史文化」、「スポーツ」を活かし、オール京都丹波で地域活性化・交流拡大を推進
- 人権が尊重され、誰もがその能力を活かして活躍できる安心の共生社会を構築

【4年間の対応方向（主なもの）】

（1）森の京都・京都丹波の地域資源を活かした交流・活力のまちづくり

- ①豊かな自然・歴史文化や食、木材など「京都丹波」ブランドのさらなる魅力発信
 - ▶京都丹波を体感できる施設や店舗、料理、ツアー等の登録と統一マークを使ったブランド発信
- ②京都スタジアムを核にしたスポーツの振興・まちの賑わいづくり
 - ▶スポーツで体を鍛え、食を味わい、自然・歴史文化を学ぶ「京都丹波まるごと体感ツアー」による“京都丹波ファン”の獲得
 - ▶大河ドラマを契機とした光秀ゆかりの城めぐりなど、テーマ性を持った広域観光の推進
 - ▶京都市内の観光スポット等で京都丹波の魅力をPRし、誘客を促進
 - ▶インスタグラムやFBなどSNSを活用した京都丹波の魅力発信

（2）人権が尊重され、希望を持って元気に活躍できる地域づくり

- ▶「みずのき美術館」と連携したアール・ブリュットの創作・発表支援による障害者の社会参加の推進
- ▶京都スタジアム等と、明治国際医療大学が連携したトップアスリートの発掘・育成とともに、子どもから高齢者まで気軽に参加できる総合型スポーツクラブの取組を支援

（3）明日の京都丹波産業を担う人づくり

- ▶企業と京都先端科学大学等との産学公連携による研究開発支援
- ▶林業大学校と連携した林業の担い手育成、「和牛塾」の開催等による畜産業の後継者の育成

（4）オール京都丹波による移住・定住プロジェクトの推進

- ▶移住に積極的に取り組む「京都丹波Uターン応援隊企業」の登録と情報発信の充実
- ▶移住希望が多い都市部の30代の若者を対象とした相談会等によるU・Iターン対策の強化
- ▶高校生が地域の産業や文化・歴史を学ぶ機会をつくり、郷土愛を醸成
- ▶高校生等を対象とした、結婚・子育てなどライフデザインを考える機会の提供
- ▶京都丹波全体で子育てを支援する「子育て文化」の醸成

（5）交流と安心・安全の基盤づくり

- ▶国道423号法貴バイパスの整備や、京都市と亀岡市を結ぶバイパス等ネットワークの強化を促進
- ▶「桂川上流圏域河川整備計画」に基づき、治水安全度の向上に向けた河川整備を推進

3 エリア構想（京都スタジアムを中核とするスポーツ&ウェルネス構想）